

第9回京都山城便教会

平成28年11月20日(土)

3年目を迎えた京都山城便教会。今回は過去最多となる23名の参加。しかも、会場となる勝山中学校の校長先生も参加していただきました。

開会式では、最初に勝山中学校の校長先生にお言葉をいただきました。

京都山城便教会の要項を見せていただき、「一人の百歩より、百人の一步」という言葉に非常に感銘を受け、その通りだと実感しています。一人だけで頑張るのではなく、みんながそれぞれの立場で、頑張ることが大切だと改めて感じました。また、「感性を磨く」とありますが、今日は皆さんと一緒に、トイレ掃除をしながら感性を磨きたいと思います。



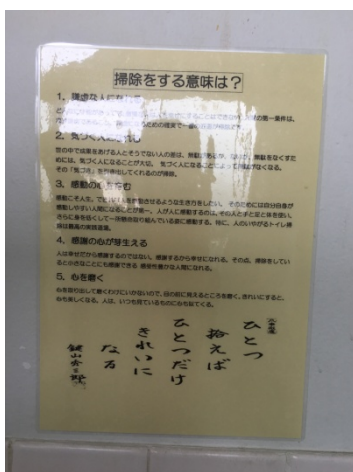
こうして幕を開けた第9回ですが、その後、自己紹介、そして鍵山先生のビデオを拝見しました。鍵山先生からは、「他者とは比較をしない。相対差ではなく、絶対差が大事である」「ドイツの哲学者ショーペンハウエルの本を読んで学んだ。何かをやるうとするときは、必ず嘲笑される、その次に抵抗される、それを越えてようやく同調するようになる」と教えていただき、「志」とは何かを教えてくださいました。

その後、第9回のテーマを発表。今回のテーマは「教育に対する覚悟」です。これを聞いて思うことを、3～4名の小グループに分かれて10分程度話し合いをしていただきました。ここまで開会式をスタートしてから45分。心のウォーミングアップを十分していただいて、トイレに向かいました。

トイレに入ると、まず目に飛び込んできたのが、下の張り紙。鍵山先生のお言葉とトイレ掃除の5つの効用が書かれていました。勝山中学校では、毎週金曜日、生徒が下校する時間になると、職員トイレに先生が集まり、トイレ掃除をされていると言う。校長先生のリーダーシップ、教員の謙虚な姿勢、それらが学校の風土・文化を作っているのだと感じました。

そして、トイレを見ると、なかなかの強敵。聞くと、学校の中で一番古いトイレで、長年の汚れがこびりついており、特に水垢がひどい状態。しかし、開会式で教育に対する覚悟を確認した皆さんにとって、この汚れは逆に気持ちを高める要素となり、序盤から気合いの入ったトイレ掃除となりました。

参加された皆さんは、リーダーの指示を聞きながら、「ハイ」と気持ちよく返事を返し、掃除が始まると無言になる。笑顔と真剣な顔の切り替えが素敵で、どんどんとトイレの空気が引き締まっていきました。





また会が進む中で、皆さんの真剣さが増すにつれ、ベテランの方々は、まわりを見出すのです。時間を確認しながら、できることを段取りよく進めていかれる。全体は、中で壁や床を磨いている間に、スッと数名を連れて使った物を洗い出されるのです。そういった合間を埋めていただけの方がいるから、全体の進行がうまくいく。まさに学校現場も同じで、担任が生徒と向き合えるように、裏で主任や管理職の先生方がスムーズに事が運ぶように、合間を埋める。ベテランだからこそできる妙技を見させていただきました。



終了後は、いつものように家内特製のおにぎりとお味噌汁をいただきながら交流会。ここ数日、生徒を怒ってばかりいた先生が、涙を流しながら、自分と向き合われた様子を語られ、会場はハートフルな雰囲気になりました。生徒思いの先生は、生徒のことを思うがばかり、つい怒ってしまったそう。でも、便器を金属ブラシでこすれば傷つくのは当然。昼からの練習で、トイレ掃除で気付いたことを生徒に伝えるとお話されました。

「生徒のために教師自身が成長し続ける」「今日1日だけの掃除では意味がない。こういう気持ちで、日常を変えていかなければならない」そんな言葉を皆さんからいただきました。

成長するとは、変化すること。青虫がさなぎになって、そして蝶々になって大空を羽ばたいたとき、ものごとを俯瞰的に見ることができる。青虫が腹いっぱい食べて太ったのは成長ではない。形やスタイルを変えて見えてくるものもある。しかし、そのすべての行動は生徒を思って行うこと。それが教育に対する覚悟ではないでしょうか。そんな話をさせていただき、第9回を終わらせていただきました。

